

# 常設委員会報告

## 総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

平成29年度の総務委員会は、下記の10名で構成されています。

- 委員長：阿部 暢夫(富士開発株)
- 副委員長：加藤 信治(株松原工事事務所)
- 委員：西部 雅英(株ヨコタテック)
- 委員：広瀬 義純(株アサノ大成基礎エンジニアリング)
- 委員：真鍋 保幸(東海地質工学株)
- 委員：天木 亨(興亜開発株)
- 委員：藤山 直也(株フジヤマ)
- 委員：山本 貢司(東洋地研株)
- 委員：土屋 靖司(株富士和)
- 委員：近藤 拓己(不二総合コンサルタント株)

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
    - ・独占禁止法遵守講習会の開催
  - ロ)新入会員の入会促進運動
  - ハ)地質調査の資格試験に関すること
    - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
    - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
    - ・登録更新講習会の実施
    - ・地質情報管理士資格検定試験
    - ・その他地質調査技士に関すること
  - ニ)四支部協議会の実施
  - ホ)会員相互の親睦会の実施
  - ヘ)その他協会運営に関すること
- 以下に主な活動報告を致します。

### ●親睦ボウリング大会

平成29年5月26日 星ヶ丘ボウル  
参加者 89名(20社)  
優勝者

- 団体 青葉工業株
- 個人男子 東邦地水株 高井 一人
- 個人女子 試験協同組合 中村 あい子

### ●第52回地質調査技士資格検定試験

平成29年7月8日 愛知県青年会館

部門	受験者	合格者
現場調査	22	14
現場技術・管理	65	30
土壌・地下水汚染	6	3
応用地形判読士	14	9
地質情報管理士	14	7
計	121	63

### ●地質調査技士受験者対象講習会

平成29年6月23日 ウイルあいち  
受講者 40名

### ●平成29年度コンプライアンス講習会

平成29年11月14日 名古屋ガーデンパレス  
受講者 273名

講師  
公正取引委員会事務局 中部事務所  
経済取引指導官 樋田 高文  
下請課長 齋藤 誠誉  
国土交通省中部地方整備局  
適正業務監理官 置田 裕己



コンプライアンス講習会実施状況

### ●親睦ゴルフ大会

平成29年10月25日 富士カントリー可児クラブ  
参加者 14名(14社)  
優勝者 (株松原工事事務所 加藤 信治)

### ●第34回地質調査技士登録更新講習会

平成29年12月1日 名古屋国際会議場  
受講者 181名

### ●四支部協議会

平成29年12月22日  
中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

### ●新春賀詞交換会・麻雀大会

平成30年1月20日 麻雀「琥珀」  
参加者 28名(16社)  
優勝者 (株アサノ大成基礎エンジニアリング 広瀬 義純)

最後に、委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



## 研修委員会報告

委員長 大久保 卓

平成29年度の研修委員会のメンバーは、以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓(株大和地質)
- 副委員長：小川 博之(株アオイテック)
- 委員：都築 孝之(日本物理探鑛株)
- 委員：中山 宏史(株総合開発調査)
- 委員：大出 彰宏(日特建設株)
- 委員：中村 正和(株日さく)
- 委員：小笠原朋弘(株ティビー)
- 委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱株)
- 委員：中野強一郎(株中野地質)
- 委員：大井 寿彦(株東日)

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ) 協会員の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
  - ロ) 現場見学会による研修会の開催(隔年実施)
  - ハ) 技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
  - ニ) 女性活躍推進座談会の開催
- 以下に主な活動について報告します。

### ●現場見学会

開催日時：平成29年6月20日(火)～6月21日(水)  
 場所：白鳥～糸魚川方面  
 講師：上野 将司氏(応用地質株・岐阜大講師)  
 参加者：27名

前回の現場見学会から4年振りの開催となりましたが、女性技術者4名を含む総勢27名の参加となりました。1日目は、大崩壊により形成された青木湖・神城断層・岩戸山崩壊等を見学。2日目は、立山の地すべり地形、幸田文の歲月茫々の碑、稗田山崩壊、フォッサマグナ等を見学しました。初日は晴天でしたが、2日目は風が強く雨が降っている中、参加者全員が上野講師の話に興味深く真剣に聞いていました。講師の話が、非常に解りやすく有意義な現場見学会でした。



現場見学会集合写真

### ●平成30年度 新春技術者懇談会

開催日時：平成30年1月26日(金)  
 会場：ホテル名古屋ガーデンパレス  
 主催：中部地質調査業協会  
 共催：中部土質試験協同組合

演題：「戊戌(つちのえいぬ)の年に改めて問う」  
 ～君は美しいモノを見たか?～

講師：岐阜大学教授 八嶋 厚先生

参加者：52名

講演内容は、「土構造物」のメンテナンスを考える上で、初期状態、つまり「美しいモノ」を把握することがいかに重要であるかについての講演でした。私達の業界において、地質調査業だけではなく、人の育成の大切さにも触れられ関心度の高い内容でした。

講演後の懇談会にも多数の方の参加により、八嶋先生を囲んだ和やかな雰囲気の中で大変盛り上がりしました。



新春技術者懇談会の状況

### ●女性活躍推進座談会

開催日時：平成30年1月26日(金)(13:30～15:00)  
 会場：ホテル名古屋ガーデンパレス  
 参加者：9名  
 議題：1.女性職員のアンケート結果について  
 2.協会への要望について  
 3.今後のスケジュール  
 4.その他

議題にそって、意見交換会を実施した結果、参加者全員の活発な意見を頂き、有意義な内に終了しました。

参加されました女性、更に各社の代表者の皆様の御理解、御協力に心より感謝申し上げます。



女性活躍推進座談会の状況

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。

## 広報委員会報告

### 委員長 西岡 吉彦

平成29年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10名のメンバーで構成されています。

- 委員長：西岡 吉彦(川崎地質株)
  - 副委員長：松浦 好樹(株ジーベック)
  - 委員：森 理(協和地研株)
  - 委員：亀谷 祐幸(大和探査技術株)
  - 委員：佐藤 安英(株中部ウエルポーリング)
  - 委員：佐橋 鋭昭(株テイコク)
  - 委員：藤本 義裕(株東建ジオテック)
  - 委員：狩野 行宏(株中日本コンサルタント)
  - 委員：服部 剛明(服部エンジニア株)
  - 委員：堀内 律輝(復建調査設計株)
  - 委員：松本 正博(株増田地質工業)
- (委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動方針は、平成29年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- (イ)発注者に対する広報活動
- (ロ)中部地方整備局との意見交換会の実施
- (ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- (ニ)全地連積算委員との連携
- (ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- (ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
- (ト)広報活動での「土と岩」の配布

以下に、主な活動について報告します。

### ●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会のご協力を頂き、7班編成で6月下旬～7月に実施しました。

訪問先は、中部協会の広報委員会が愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人を担当し、愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会が各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・協会誌「土と岩」65号
- ・全地連PR誌：日本ってどんな国
- ・CIMガイドライン
- ・地質リスク発注ガイド

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌65号は、「活断層」をテーマに特集を組んだものです。活断層による地震被害は2016年4月に発震した熊本地震によるものが記憶に新しいところですが、本誌では、中部地方の活断層、活断層のメカニズム、ノンテクトニック断層や活断層調査の方法等多岐にわたった内容を、各分野の専門の方に執筆していただき、読み応えのある内容となっています。また、同号には特別寄稿「岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター」の活動紹介や散文「式年遷宮記念 せんぐう館」の紹介等盛りだくさんの内容を掲載しています。配布先では、協会誌の完成度の高さに多くの方々が感心され、技術資料としても価値が高いとお声を頂戴し、各所で各部署の皆様方にも回覧するとのお約束を頂きました。

同号には平成28年10月31日に国土交通省中部地方整備局と行った「平成28年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様子が報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連PR誌「日本ってどんな国」は、今年度は「粘土・無限の未来」をテーマにしたもので、太古の昔からの粘土と人のかかわり、こんなところにも粘土! の驚きの世界、そして、粘土の未来、知られざる粘土の世界をご紹介します。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも拘わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

### ●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「平成29年度中部地区に於ける地質調査業に関する意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、平成29年10月31日に桜華会館にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その模様は本誌で報告していますので、是非ともご覧ください。

### ●委員会の取り組み

広報委員会は、今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



## 技術委員会報告

委員長 法安 章二

平成29年度は、ミニフォーラムの企画・開催や学会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

今年度のメンバーは、以下の9名です。

- 委員長：法安 章二(玉野総合コンサルタント(株))  
 副委員長：中平 啓二(株)ダイヤコンサルタント)  
 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))  
 委員：片岡 泰(株)キンキ地質センター)  
 委員：草野 善彦(株)岐阜ソイルコンサルタント)  
 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))  
 委員：高橋 幸伸(東海ジオテック(株))  
 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))  
 委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- (イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進  
 ・「中部ミニフォーラム2017」企画・開催(H29.10.6)  
 (ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部諸行事への共催、事業協力  
 ・「地盤調査ボーリング作業見学会」の開催(H29.4.28)  
 (ハ) 全地連が主催する講習会の開催支援  
 ・全地連「拡大技術委員会」への参加(H29.9.13)  
 (ニ) 地質調査関連講習会への講師派遣

### ●地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催、中部土質試験協同組合との共催で毎年実施しております。

技術委員会は、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリングツールズについても各種展示しました。

参加者は71名で、地質調査会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は40名でした。



### ●中部ミニフォーラム2017

名古屋国際会議場で開催し、78名と多くの方の参加を賜りました。

開催に当たっては、協会会員各社に在籍の、特に若手技術者の発表力・技術力向上を目指しております。

今年度は12名の多くの若手技術者の方が発表し、その後発表内容に対しての意見交換の場を設け、各セッションの終了時に座長が簡単な講評をまとめました。また、特別企画として業界OBの安江氏と坪田氏に、「技術の伝承」と称し、大変貴重なご講演をいただきました。

優秀論文発表者は論文及び発表審査の結果、下記の2名の方に決定しました。

- ・「供試体作製時の含水比が透水係数と密度の分布に及ぼす影響」竹内啓介氏(中部土質試験協同組合)
- ・「ドローンを活用した熱赤外線調査法による吹付のり面の老朽化診断」原由次郎氏(株)ジーベック)

両名には、5月に開催の通常総会の場において表彰します。また、論文は本号「土と岩」及び、協会ホームページにも掲載してあります。



### ●全地連「拡大技術委員会」

全地連「技術e-フォーラム2017」旭川の前日に開催され、各地区協会の技術委員会活動や全地連への要望等、意見交換がなされました。

学会中部支部等の諸行事への共催、並びに後援等の協力については、以下の通りです。

- 日本応用地質学会中部支部
  - ・平成29年度 技術交流会(H29.10.20)
- 地盤工学会中部支部
  - ・第26回 調査・設計・施工技術報告会(H.29.6.30)
  - ・第29回中部地盤工学シンポジウム(H29.8.2)

# 防災委員会報告

委員長 武藤 英教

平成29年度のメンバーは以下の7名です。

- 委員長：武藤 英教(青葉工業株)
- 副委員長：澤田 哲郎(株朝日土質設計コンサルタント)
- 委員：澤田 茂(株興栄コンサルタント)
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス株)
- 委員：黒田 了介(株グランドリサーチ)
- 委員：齋 秀(株東海建設コンサルタント)
- 委員：岡野 直次(株ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

- 1) 中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
- 2) 「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として継続会議に出席参加
- 3) 中部地整との災害協定の改定協議(H29.12)
- 4) 震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

## ●事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員58社、本店・支店・営業所を合わせて計94事業所が登録され、登録派遣人員数は484名となっています。

## ●「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」への参加

東日本大震災を踏まえ、中部圏の国、地方公共団体、学識経験者、経済団体、ライフライン関係機関等が幅広く連携し、南海トラフ巨大地震に対して広域的視点から一体となって取り組む協議会(構成員:119機関、H30.2)が結成されており、ライフライン関係機関として防災委員が出席しています。詳細内容については中部地整のホームページをご覧ください。

(<http://www.cbr.mlit.go.jp/senryaku>)

## ●中部地整との災害協定の改定協議(H29.12)

H 9.2月に初めて災害協定を締結してから今年度は5回目の大改定となりました。過去の改定の流れは以下の通りです。

- 1.H17.3 災害協定 小改訂
- 2.H20.7 災害協定 小改訂
- 3.H21.4 災害協定 大改定  
災害→事故も含む、協会要請→協会員に直接要請
- 4.H25.3 災害協定 大改定  
派遣リストの提出の義務化(6月末まで)  
震度6弱以上は自発的に情報収集すること  
テックフォース隊への支援を明文化  
出動要請者に対する契約締結の明文化
- 5.H29.12 災害協定 大改定  
(一社)中部地質調査業協会との再締結

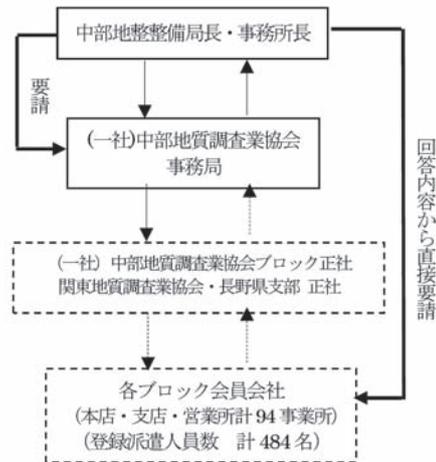
運用規定を別途事務局長と締結

中部地整からの出動要請書を明文化

## ●「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練を行っています。中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月29日に実施しました。昨年同様施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録会員94事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

配下協会員に抜き打ち的に行ったにもかかわらず、回答率は86%(昨年は80%)となっており、比較的スムーズに地整側に報告できる体制が整っていることを確認しました。



災害対策本部からの情報収集状況

以上が活動報告です。

中部地整と災害協定を締結して20年を迎えましたが、この間災害緊急時の要請に迅速に対応できるよう訓練を積み重ねてきました。

また、今年度は法人格を取得したことで5回目の改定を取り交わし、具体的な運用規定を組み入れ、地整からの要請書も新たに明文化しました。

会員におかれましては、要請時への連絡対応ができるよう引き続き社内防災体制の確立に努めていただきますようお願い申し上げます。



## 編集委員会報告

委員長 井出 修

平成29年度の編集委員会は、下記の11名で運営してきました。

- 委員長：井出 修(応用地質株)(10月～)  
 委員長：成瀬 文宏(基礎地盤コンサルタンツ株)  
 (4月～9月)  
 副委員長：中西 晃(基礎地盤コンサルタンツ株)  
 (10月～)  
 委員：片平 宏(明治コンサルタント株)  
 委員：佐藤 威臣(国土防災技術株)  
 委員：竹市 雅司(株東京ソイルリサーチ)  
 委員：山里 剛史(株ダイム技術サービス)  
 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント株)  
 委員：川口恵美子(丸栄調査設計株)  
 委員：勝眞 浩一(南海カツマ株)  
 委員：小田 秀昭(株建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」65号の発刊、配布先の検討、配布、66号の企画制作。
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(HPワーキング担当、次頁にホームページワーキンググループの活動を別途掲載)。

### ●「土と岩」66号の編集について

平成29年度は2回の委員会と数回のメール審議を開催し、66号の企画・構成から執筆者の選定と原稿依頼、受領原稿の校閲、デザイン構成等を行い、発刊への準備を進めてきました。

### ●特集テーマと編集方針

今年度の初回委員会では、66号の特集のメインテーマについて議論しました。出席委員がテーマ案を持ち寄って議論を進めた結果、「異常降雨や巨大地震への対応」、さらには「持続可能な社会の実現」という観点から、これらの重要課題の一つが社会インフラの維持管理であることから、メインテーマは「メンテナンス」と決定しました。

内容につきましては、協会員に馴染みが深い「土構造物のメンテナンス」とし、具体的には盛土構造物(道路盛土、河川堤防)、切土構造物、トンネルとしました。これらの土構造物のメンテナンスについては、最新の点検・診断技術や健全性評価技術に係る研究の第一線でご活躍されている先生方にご執筆をお願いしました。読者の皆様の知的好奇心をくすぐることができたものと考えております。

### ●特別寄稿

今年は、三重大学 地域圏防災・減災研究センターを取り上げ、畑中先生、水木先生にご紹介いただきました。本センターは、産官学民の継続的協働による防災・減災力の向上を図ることで、想定被害の大幅軽減を目指しています。巨大災害への対応のあり方として、皆様の今後の業務の一助、またはきっかけになればと期待したいと思います。

### ●散文

今年の散文は、愛知県名古屋市東区徳川町の徳川園内にある徳川美術館です。

江戸時代の大家・尾張徳川家に伝えられた重宝、世界的にも有名な国宝「源氏物語絵巻」などの収蔵品や展示室の特徴について、徳川美術館、学芸部の加藤先生にご紹介いただきました。

### ●その他の記事等について

平成29年10月に開催した国土交通省中部地方整備局との意見交換会の内容を掲載致しました。現状の発注環境や業界の課題等について垣間見ていただけるものと思いますので、協会員のみならず、広く読者の皆様にご読いただければと思います。

また、協会でも若手育成の一環として毎年開催しています中部ミニフォーラムでの優秀賞2編、現場研修会の報告2編をご紹介させていただくとともに、協会の活動状況のお知らせとして、常設委員会である総務、研修、広報、技術、防災、編集の各委員会報告と、ホームページワーキングの活動報告をまとめました。

末筆ながら、今回お忙しい中、特集論文のご執筆をいただきました。岐阜大学の八嶋先生、村田先生、荻谷先生、中日本高速道路株式会社の緒方先生、名城大学の小高先生、一般社団法人日本建設機械施工協会、施工技術総合研究所の寺戸先生、および特別寄稿をご執筆いただきました三重大学の畑中先生、水木先生、散文をご執筆いただきました加藤先生には改めて深く感謝申し上げます。

また、本誌表紙と裏表紙背面の写真は、中日本高速道路株式会社に、口絵写真は国土交通省中部地方整備局にご提供いただきました。重ねて感謝申し上げます。

今後とも皆様に興味深く愛読される機関紙づくりを目指してまいりますので、よろしく申し上げます。

# ホームページワーキング活動報告

編集委員会・ホームページWG  
宮尾 浩一

## 平成29年度のワーキングの構成

平成29年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、親委員会の編集委員会より、編集委員長、編集副委員長等が加わり、活動を行ってきました。なお、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上、連携強化の一環として、引き続き、静岡支部からのメンバーも参加し、活動してきました。

- 委員：宮尾 浩一(応用地質(株))
- 委員：米田 英治(川崎地質(株))
- 委員：津坂 喜彦(株アオイテック)
- 委員：長屋 浩輔(基礎地盤コンサルタンツ(株))
- 委員：小倉 直也(東邦地水(株))
- 委員：黒田 了介(株グランドリサーチ)

## 平成29年度の活動の概要

平成29年度のホームページワーキングは、協会の一一般社団法人化に対応したホームページの修正から始まり(4月)、ホームページ利用者アンケートの整理・議論(4月～5月)、年度活動計画の議論(5月)、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応(4月～6月)、ミニフォーラム表彰論文の掲載等(随時)、協会の活動に伴う活動を行ってきました。このほか、有志から提供された情報の随時掲載(身近な地質スポット、歴史地震スポット等)、役立ちそうなサイトへのリンク付け(随時)なども、ワーキングで議論・検討しながら行ってきました。

また、平成29年度には、これまで使用していたサーバーのバージョンアップに伴い、これまで利用していたホームページの維持に不具合が発生する懸念が高まったことから、緊急的に、新しいサーバーへの移行を行いました(7月～8月)。これに伴う不具合の修正も行いました(9月～10月)。この新サーバーへの移行の結果、常時SSL化にも対応しました。

なお、皆様から寄せられたご意見、ご要望、励まし等については、ホームページワーキングで結果を分類整理した上で、ホームページに関わるものは、ワーキングで議論し、年間活動計画の参考にさせていただきました。協会の活動に対するものについては、ワーキングの意見も付して、親委員会である編集委員会を通じて役員会に報告し、各委員会等の活動の参考とすべく展開させていただきました。

## トピック的な活動①：静岡地域の地質情報の追加

以前より、アンケート等を通じて、静岡地域の情報も含めたいというご要望をいただいております。平成28年度末までに、静岡支部のご協力をいただき、静岡地域を追加する形で、このコーナーを更新しました。



## トピック的な活動②：新たなリンク付け・会員企業バナーの更新

平成29年度には、利便性の向上のほか、アンケートで寄せられご要望にも対応するため、熊本地震関連情報が集約されているサイトや、日本地下水学会サイト、“どこでもダム”サイトへのリンク付けを行いました。また、平成29年度後半には、会員企業より寄せられた情報に基づきバナー更新を行いました。バナー更新につきましては、随時更新しますので、更新が必要であれば、事務局まで情報をお送り下さい。



【熊本地震の関連情報が集約されているサイト】

災害対応支援を目的に、関連する情報の集約・発信を緊急的に行っている国立研究開発法人 防災科学技術研究所 自然対策室のサイトです。



【日本地下水学会のサイト】

地下水に関する総合的な学問の発展ならびに地下水の開発・保全に関する研究、技術の広範な普及を目的とした学会のサイトです。



【“どこでもダム”サイト】 <http://dokodam.dammaps.jp>  
Web上から簡単に仮想ダムを建設できるサイトです。



トピック的な活動③：更新情報の連絡

平成29年度には、ホームページ利用促進の一環として、事務局の協力も得て、引き続き、更新情報を会員の皆様に連絡するように致しました。これに伴い、会員の皆様には、更新情報を水平展開していただく“連絡窓口”の複数化にご協力いただきました。

また、アンケート結果を踏まえて、“身近な地質スポット”について、お知らせページのほか、“連絡窓口”を通じて、情報提供のお願いを行いました。なお、いただいた情報につきましては、ホームページワーキングで検討した上で、追加更新等の作業を行います。

トピック的な活動④：地質調査業協会活動に関係しそうな情報の収集・掲示 試行

平成29年4月に実施したホームページ利用者アンケートでは、社会の動向や技術開発などの情報を把握することを目的に、「地質、土質に関する最新情報(ニュース)を随時お知らせ内でアップしては…」とのご意見をいただいております。

平成29年度には、このようなご意見に対応するため、可能な範囲で、ではありますが、協会活動にも関係しそうな社会動向の情報を、試行的に、試行錯誤しながら、収集・掲示する活動を行いました。

情報収集の範囲や、掲載頻度、収集情報の掲載の仕方等、まだまだ改善が必要ですが、当面の間、試行を継続していきます。

ホームページ利用者アンケート

平成30年3月～4月に、昨年に引き続き、ホームページ利用の実態、利用者の皆様のご意見・要望等の把握等を目的に、アンケートを実施しています。この結果は、平成30年度のホームページワーキング活動において参考に致します。

ご利用・ご支援のお願い

平成30年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。皆様からの声が、私たちの活動の支えとなっております。

今後とも、関係者一同、より良いホームページになるよう努力してまいりますので、引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。